

2026年度 博士前期課程入学者選抜(Ⅰ期)
学 力 検 査

専 門 科 目
(グローバルコミュニケーションコース)

【問 題】

次の各問に 600 字以内の日本語(横書き)で答えなさい。必修問題は必ず解答し、選択問題は4つのうち1つを選ぶこと。解答には指定の解答用紙を使用し、選択問題については選択した問番号を解答用紙の左上の に記入すること。

【必修問題】

グローバリゼーション研究の先駆的研究の一つ、Richard J. Barnet and John Cavanagh, *Global Dreams: Imperial Corporations and the New World Order* (New York: Simon & Schuster, 1994) は、1980 年代から 1990 年代初めにかけて、ポップミュージックやハリウッド映画などに代表される、グローバルな商業的エンタテインメント産業の急成長が見られたとし、その要因として、情報伝達の技術革新や巨大メディア産業の登場などを指摘した上で、以下のように述べている。この文章を読み、二人の著者の説明について、あなたの考えを書きなさい。また、この著書の刊行後、現在までの変化を踏まえて、二人の著者の説明は、どの程度、現在の日本社会に当てはまるのか、述べなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(pp.37-38)

【選択問題】

【 1 】

日本が批准している「子どもの権利条約(児童の権利に関する条約)」(1989年採択、1990年発効)の第29条1は、「締約国は、児童の教育が次のことを指向すべきことに同意する。」とし、その c.に「児童の父母、児童の文化的同一性、言語及び価値観、児童の居住国及び出身国の国民的価値観並びに自己の文明と異なる文明に対する尊重を育成すること。」を挙げている。また、第30条は、「種族的、宗教的若しくは言語的少数民族又は原住民である者が存在する国において、当該少数民族に属し又は原住民である児童は、その集団の他の構成員とともに自己の文化を享有し、自己の宗教を信仰しかつ実践し又は自己の言語を使用する権利を否定されない。」と定めている。これらの条文に照らして、日本における言語の教育と使用の現状と課題を簡潔に述べなさい。

【 2 】

社会、学校、あるいは、共同体における多言語政策、あるいは、多言語状況が第二言語習得に及ぼす影響について、具体例を挙げて論じなさい。

【 3 】

歴史の二つの側面について述べた次の文章を読み、あなたがこれまでの学校教育や社会生活において経験した、それぞれの側面に関連する事例を挙げなさい。また、現在の日本社会における歴史意識の形成に、それぞれの側面がどのような影響を与えているか、あるいは与えていないか、簡潔に述べなさい。

著作権の関係上、掲載していません。

(テッサ・モーリス＝スズキ『過去は死なないーメディア・記憶・歴史』田代泰子訳、岩波書店、2004年、27-28 ページ)

【 4 】

他者を考慮せずに自己を定義することは可能か？ あなたの考えを書きなさい。

2026年度 博士前期課程入学者選抜（I期） 学力検査
専門科目（グローバルコミュニケーションコース）

《解答・解答例》

論述試験のため採点のポイントを示す。

【必修問題】

【採点のポイント】

1. 引用文の趣旨を正確に読み取れているか。
2. グローバリゼーション研究の研究視角を理解しているか。
3. グローバル化に伴う社会変容に関する現状認識を的確に表現できるか。

【選択問題】

【1】

【採点のポイント】

1. 子どもの権利条約の条文の該当箇所を正しく理解しているか。
2. 日本における継承語の教育の現状と課題について、自分自身の認識を適切に表現できているか。

【2】

【採点のポイント】

1. 多言語状況にある、または、多言語政策を実施する国や地域について、とりわけ、多言語政策と第二言語習得の関係について理解しているか。
2. 的確な具体的事例に基づいて自説を論じているか。
3. 論理的で分かりやすい日本語表現を用いているか。

【3】

【採点のポイント】

1. 歴史研究の二面性を述べた引用文の趣旨を正しく理解しているか。
2. 自分自身の経験を踏まえ、具体的な事例に基づいて日本における歴史意識の形成に与えた影響について適切に表現できているか。

【4】

【採点のポイント】

1. 自己と他者という抽象的語彙を用いて自説を展開できていること。
2. これらの語彙の哲学的背景を理解した上で論じていること。
3. 論理的で分かりやすい日本語を用いていること。

《出題の意図》

【必修問題】

本研究科での学修・研究のための基本的な資質・能力を問うため、グローバリゼーション研究の基本文献に関する問題 1 題を必修問題として出題した。

【選択問題】

受験者の専攻分野を考慮して選択問題 1 題を回答させ、大学院での学修・研究のための基本的な資質・能力を問うた。